

社会「江戸幕府の成立とその特色」

中学校・第2学年

【本単元の概要】

江戸幕府の特色を多面的・多角的に捉え、理解させるために、協働的な学習を展開する。幕府の将軍という立場に身を置かせ、幕府を安定させるための取組を考えさせていく過程で、政治・経済の特色について他の大名や農民の立場等からも考えさせる。将軍の立場から幕府の取組を調べ考えさせることで、当事者意識をもたせ、焦点や脈絡をもった自分なりの言葉で江戸幕府の特色を表現させることができる。

1 単元の目標

江戸幕府の政治的な特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを、江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子学習を通して理解できるようにする。

2 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 近世社会の基礎や幕府と藩による支配の確立、江戸幕府の政治的特色、鎖国の完成、近世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、近世社会の特色を捉えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 近世社会の基礎や幕府と藩による支配の確立、江戸幕府の政治的特色などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 学習した内容を活用し、比較や関連付けを行い、近世社会の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の成立、身分制度の確立、江戸幕府とそれまでの幕府の違いなど、近世の政治や社会に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して読み取り、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の成立により近世社会の基礎がつけられたこと、幕府と藩による支配が確立したことを、江戸幕府の特色と中世までの幕府との違いを理解し、その知識を身に付けている。

3 単元の指導計画（全6時間）

時	学習活動 (協働的な学習活動)	言語活動のポイント
第1時	<ul style="list-style-type: none"> これまでの武家政権と比較して、江戸幕府が長く続いたことを把握し、過去の武家政権崩壊の原因を振り返る。 これまでの学習を振り返る活動 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを伝え合い、互いの考えに意見を言ったり、幾つかにまとめる活動を設定したりすることで、各時代の武家社会の支配構造を、側面や立場などを変えて多面的・多角的に考察させる。他者の意見や考えを参考にさせ、よりよい意見にさせる。
協働的な学習活動のポイント		
他者と話し合う必然性のある課題の設定		
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 幕府の将軍の立場で、自己の対抗勢力となりうる立場とその勢力に対する対応を予想する。 予想し話し合う活動 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の武家政治の支配構造と崩壊の原因を分析させる。崩壊を回避するための政策について話し合わせる。自分たちが話し合った解決策と江戸幕府の政策を比較させることで、江戸幕府の政治について、当事者意識をもちながら理解できるようにする。
コミュニケーションを深めるための個に応じた指導の充実		
第3時 第4時 第5時	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の政策を様々な資料から調べる。(対大名・対農民・対外国など) 調べる活動 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を言いやすい環境をつくり、話し合いに参加させる。「2人の相談」、「4人の話し合い」、「6人での発表」など様々なグループ形態による話し合いを行わせ、参加機会を増やす。話し合いにより、考えを深めるとともに、知識の定着を図る。比較しやすいように、関連資料を併記した補助プリントを準備し配布する。
互いの考えを知るための工夫		
第6時 本時	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府が長期政権となった要因を、話し合いにより一つか二つに絞り込み、そう考えた理由とともに発表する。 調べたことを基に、要因を考える活動 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心を高めるため、注目させたい資料を提示して、話し合いの充実を図る。また、発表の際には、自分たちの主張の根拠となった資料を電子黒板で提示させる。
自己評価を生かした指導と評価の一体化		
<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入で、長期安定政権を確立した理由を考えさせるために、これまでの学習を振り返らせる。単元の終末では、本小単元で調べたことを加えて振り返る時間を設定する。 学習内容と協働的な学習に関する指標等により自己評価を行わせることで、話し合いを積極的に行う環境を整える。 		

4 本時の学習（第6時）

(1) 特に重点を置いた言語活動のポイント

・他者の意見を参考にして、自分の意見を多面的・多角的に振り返る場面を設定する。武家社会の支配構造について調べたことを基に話し合わせ、経済的側面や農民の立場などから考えさせる。

(2) 特に重点を置いた協働的な学習活動のポイント

□ コミュニケーションを深めるための個に応じた指導
意見を言いやすい環境をつくり、話し合いに参加させる。考えの深まり、知識の定着のため、「2人の相談」、「4人の話し合い」、「6人での発表」など、学習過程によりグループの構成人数を変えて話し合いを行わせ、参加機会を増やす。

(3) ねらい

これまでの幕府と江戸幕府を比較し、安定政権につながった要因を考えることができる。

(4) 本時の展開

学習過程	学習活動	指導のポイント
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">課題を把握する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自分の考えをもつ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">協働的な学習活動グループ全体</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自分の考えを再構築する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自己の変容などを振り返る</div>	1 江戸幕府の支配構造における、大名や農民などの立場の違いを確認する。	◆江戸幕府が政策上、重視した人々の立場に着目させる。
	江戸幕府が、長く続いた要因を考え、話し合った結果を発表しよう	
	2 課題に対する自分の考えをもち、理由を書く。 ○大名、農民、外国人などの立場を想定し、自分の考えの理由を書く。	◆理由が思い付かない生徒に対しては、自分が調べたことを振り返らせ、そこから理由につながることを探させる。 ◆経済面・政治面などの側面、様々な立場から見る意識がもてるように、個別に声を掛ける。
	3 考えた理由について話し合い、グループの考えをまとめ発表する。 ○これまで、自分で調べた資料を活用しながら理由を話し合い、グループの考えをまとめる。 ○三つのグループが前に出て、グループの意見を順番に発表する。	◆個人での調べ学習で理由がはっきりしなかった生徒は、他者からヒントを得られるようにする。 ◆圧倒的な経済力、軍事力のある江戸幕府と、それにより統制された地方の統治者である大名の姿を明確にした意見を紹介する。
	4 話し合いをした上で、もう一度課題について意見を書く。	◆他者と話し合いをした上で、もう一度自分の考えを読み直させる。
5 話し合いについて自己評価を行い、学習を振り返る。	◆考えた理由を書き加えることができた生徒に、誰のどの考えで変わったのかを書かせることで相手を意識させる。	

検証の成果と課題

◆成果◆

・「なぜ江戸時代が長く続いたのか」という問いに対して、各々の生徒が自分の考えた側面や立場から調べ、グループで話し合い、全体で意見交換したことで、多面的・多角的に考えさせることができた。さらに、資料活用を促し、根拠となる知識をより確かにした。

【生徒の記述】

私は江戸幕府が安定した理由は、様々な仕組を作ったことにあると思います。私のグループはその仕組として武家諸法度や土農工商を挙げましたが、他のグループの発表にあった参勤交代で、あまり親しくない遠くの人にお金をたくさん使わせるというのは、なるほどと思いました。大名の配置も、親しい人をうまくはさんでいて、鎖国で外国の干渉を防ぐことにもつながっていくことが分かりました。こうした仕組を多く、上手に作ることで反乱も防げたのだと思います。

・学習のまとめとして、グループの考えを全体発表することを示すことで、それぞれの習得した知識を活用して、多くの生徒がグループの中で積極的に話し合うことができた。

【生徒の様子】（4人グループでの話し合い）

（資料を見ながら）「直属軍2万人は、多いのか、少ないのか。」「たったの2万人だ。」「学校の生徒が約500人だから、大名一人で支配されるよ。」「2万人、すごいじゃない。」「直属軍を(要因に)選んだ理由は何か。」「強いから。」「逆らえないということだよ。」「そういうことだね。」「直属軍のお金は」…

・自己評価では肯定的に受け止める生徒が多く、当初から話し合う素地ができていた。相手を意識してうまく伝えられた4以上の生徒は、第6時が終わって66%であり、当初と比べ、17ポイント増加した。

◆課題◆

・多くの生徒が積極的な関わり合いをもてたが、更にねらいに迫るための手だてを必要とする生徒もいた。全体発表の表現力や、話し合いの内容や時間を配分する力は、すぐに身に付かない生徒もいるので、繰り返し指導が必要である。